

Editorial

ワクチン「安全性に関わる重大な懸念」の評価基準は 123

New Products

レプリキズマブ（イブグリース®皮下注） 124

難治性アトピー皮膚炎用：害は詳しくわかっていない

総説

シリーズ（その4）身近な害反応から、害反応-処方カスケードへ

処方の多い薬剤による糖尿病 127

スタチン剤による糖尿病 127

男性ホルモン遮断剤による糖尿病 130

コラム アンドロゲン除去療法について 132

Topic

高血圧管理・治療ガイドライン 2025 を批判する 135

強力な降圧で循環器病が減る証拠はない

新薬の価格設定：デッドロック（行き詰まり） 140

Others

医師国家試験に挑戦しよう（問題） 134

コーヒー無礼区 薬害は終わっていない 134

医薬品危険性情報 141

FORUM

Q&A：電子版の参考文献、該当の号が見つからない 142

医薬品全般についての良質な情報を期待 142

医師国家試験に挑戦しよう（正解と解説） 143

次号予告／事務局だより／編集後記 144

表紙のことは：秋にカムチャツカ半島から渡ってきたユリカモメ。4月には北へ帰っていきます。

編集部から

国の感染症対策機関※は主な感染症の発生動向を公表しています。新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなど、上気道/下気道炎を引き起こす病気の発生動向が示されており、いずれも一定周期で流行と収束を繰り返すパターンが続いています。前3者はワクチンが市販されていますが、このパターンを見た限り流行阻止に役立っているとは言えず、新型コロナウイルス感染症などは、夏にニンバス株が流行したとの報道は記憶に新しいところです。

本誌は、インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルスに対するワクチンの有効性は期待できないことを早期から指摘しており、結果的にこれらの見通しは概ね正しかったと考えます。感染症を克服するために、ワクチン等の新薬剤を開発しようとする姿勢自体を否定するつもりはありませんが、開発された新たな薬剤は本当に有効性が見込めるのかを見通すこと、また本当に有効だったのか、害がなかったのかを事後的に検証することは重要ではないでしょうか？

今後も、こういった重要情報を早期に提供することで皆様に貢献できる情報誌であり続けたいと考えています。（わ）

※ 国立健康危機管理研究機構：2025年4月1日に国立感染症研究所と国立国際医療研究センターが統合された。